

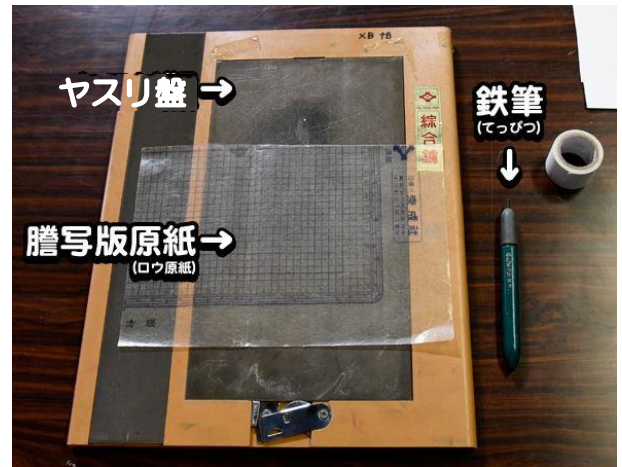
もく はん が

木版画ではありません

いん さつ き

とう しゃ ばん

ガリ版印刷機（謄写版）



昭和38年度 第2学期 行事予定表		福中県立春江	
38年度	第2学期	行事予定表	11月
9月	10月	金	中間試験成績一覧
火	体育常任委員会	土	作成
水	生徒会へ譲渡	月	体育常任委員会
木	生徒会新役員就任	火	(校内球技大会計画)
金	校務会議	水	文化の日
土	職員会議	木	模試(秋)
日	新1年生入学式・開校記念式	金	職員会議
月	自転車鑑査	土	検便
火	自転車鑑査	日	模試(夏)
水	自転車鑑査	月	服装検査
木	自転車鑑査	火	模試(国)
金	自転車鑑査	水	
土	自転車鑑査	木	
日	自転車鑑査	金	

昭和38年度学校行事予定表(旧春江工業高校)

手書きの文字、インクのにおい、そしてわら半紙。昭和の初めの時代、このガリ版で刷った印刷物が学校の主流でした。「ガリ版」とは「謄写版」の別名で、ろうが薄く塗られた原紙をヤスリ盤の上に置き、鉄筆で細かな傷を付け、その穴から出るインクを紙に写して印刷する器具のこと。原紙を鉄筆で削るときの「ガリガリ」という音から、「ガリ版」とも呼ばれています。

「鉄筆で書く時、力を入れすぎると紙が破れ、力が弱いと字が浮き出ず、加減が難しかった」と経験者の感想です。手書きの学級通信、委員会の広報など手を真っ黒にして活動したことも良い思い出です。教育博物館の展示室には、ガリ版印刷機の横にわら半紙にガリ版刷りの春江工業高校1963（昭和38）年度第2学期の行事予定表が展示されています。行事予定表からは、開校間もない様々な学校の様子がうかがえます。

学校内印刷技術の移り変わり

①

とうしゃ せいはんき
謄写ファックス製版機



②

和文タイプ



③

ワープロ専用機（リボン式）



③

ワープロ専用機（感熱式）



その後、学校内では^{とうしゃ りんてん き}謄写輪転機が主流となり、鉄筆からボールペンなどで製版する「ファックス原紙」に書いた原稿を製版する、ちよつとくさいにおいのする「^{とうしゃ}謄写^{せいはん き}ファックス製版機①」が登場しました。大量のプリントを短時間で印刷でき、教科のプリント、学級だよりや連絡用プリントなどが生徒たちに配られました。

時代とともにますます技術も進みます。文字も手書きから「和文タイプ②」の時代に入ります。

さらに^{き かい か}機械化など技術革新も高度化し、学校にも「ワープロ専用機③」が普及しました。現在の^{ふきゅう}パソコンによる業務のICT化につながっています。